



秘書課 ☎66♦1161

鈴木市長の辞職による市長選挙は平成11年11月7日、無投票で金原久雄氏が当選しました。

金原市長は、「安心のまち・自然と共生するまち・明るく元気なまち」を基本施策とし、民間経営のバランス感覚で行財政改革を進める市政をスタートさせました。

また、就任後は「市長への手紙」や市長対話「ざっくばらん」を実施して、市民との意見交換を積極的に行いました。

在任中は、鉄道高架事業の完成や、競艇のオールナイト化、市内7カ所の児童館建設などにご尽力されました。

なかでも鉄道高架事業は、交通渋滞緩和や踏切事故解消などの多大な効果を期待して進められ、まず12年11月に名鉄線、そして15年4月にはJR下り線、さらに17年12月にJR上り線の高架が開通

となりました。これに併せて蒲郡駅の建設、駅前広場の整備なども進められ、20年3月完成しました。

平成16年4月、蒲郡市は市制施行50周年を迎えました。4月17日の記念式典を皮切りに、「音楽のまち蒲郡」への取り組みや「地域の里づくり事業」、「50人の先輩に学ぶ」など、さまざまな事業が展開されました。特に市民主導で行われた「音楽のまち蒲郡」では、年間を通して「がまごおり市民音楽祭」と題して数多くのイベントが実施されました。

市長在任中の12年間は、少子高齢化や経済情勢など、地方を取り巻く環境が大きく変化した時代でしたが、財政の健全化、防災、産業の振興、福祉の充実など、蒲郡市が抱える多くの課題に先頭に立って取り組まれ、市政の発展に大きく貢献されました。また、念願のブルーブリッジの開通(15年)、新給食センター(16年)や新消防庁舎(22年)の建設にも尽力されました。



名鉄線の高架開通

生命の海から

学芸員 山中敦子

生命の海科学館
☎66♦1717

冬のキラキラ 変幻自在！でも芯はまっすぐ

今朝出勤すると、生命の海科学館の中庭にある怪獣の池の端っこが、キラキラしていました。池の縁がわずかに凍り、朝陽を浴びていたのです。

器に合わせて自由自在に形づくることができる、水。ですが、そのまっすぐな本質に気づかれたい方も多いでしょう。窓を覆う薄氷が、美しい幾何学模様を描くことがよくあります。また小さな雪の結晶も、実は直線の組み合わせでできています。このような姿形は、実は目には見えない極小の水分子の性質が作り出しているのです。雪の結晶の六角形は、まさに氷の本質を表す美しい形です。

四角四面！でも涙(水)に弱い

さて、一方実験室では、作業机の上がキラキラしていました。こぼしたままになっていた食塩水から塩の結晶ができていたのです。透明な小さなサイコロがいくつも、コロコロ、キラキラ。湿気の多い夏場だと、放っておくと空気中の水分を吸って溶けてべたべたになってしまいますが、乾燥しているこの時期なら、美しい塩の結晶でいろいろな塩遊びが楽しめます。

きらりと光る四角い形は、目には見えない塩の分子のならびが作り出しているものです。透明なキューブは、まさに塩の本質をあらわす美しい形です。

季節のキラメキは科学の扉

自然が生み出す美しい色や形は、季節のお楽しみであり、科学の入口でもあります。つい出不精になりがちですが、キラキラが目飛び込んで来たらぜひ、その源を探してみてくださいね。



美しい塩の結晶。食塩水からできる結晶は、どんなに小さな粒でもきれいなサイコロの形をしています。面が光をはね返し、キラメキが生まれるのです。